

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の中で安心してその人らしく生活することを支えるケアをする。	○	地域や入居者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状にあった理念の検討をしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念について、ミーティング、朝礼、終礼時に、職員に話しをし、必ず触れ共有している。また理念に基づいたケアをするように心がけている。	○	毎日勤務の職員と管理者で、ミーティングをして、理念に必ず触れ、確認している。今後も続けたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入所時や面会時等に、伝えている。また、町内会の会合や、運動会、文化祭に参加し、折に触れホームでの様子を伝えるようにしている。地域へ向けての広報誌等はまだ発行できていない。	○	家族には、今後も面会時等に伝えていきたい。地域には、イベントの参加だけでなく、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を載せた広報誌を配布していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの敷地内に畑があり、収穫している時に、近隣の畑の方と声かけたりしている。作物の育て方を聞いたりしている。また救急講習会を開く際に近隣の方に声をかけ、参加していただいた。	○	日常的に散歩や買い物にでかけて、近隣の人達とあいさつを交わしたり、話をする機会を増やしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入はしている。会合には、参加できるときにはしているが、いつもではない。また運動会や文化祭などには積極的に参加させてもらっている。	○	会合には、定期的に参加できないが、出来るだけ参加していきたい。運動会や文化祭には参加しているが、地域のかたとの交流は十分ではないので、声かけしたりして交流を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つことについて話し合いや取り組みはできていない。	○	運営推進会議などを利用して、地域の高齢者等の暮らしに役立つことの話し合いなどをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて話し合いを持っている。	○	年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、事業所の質の確保に最大限活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームからの報告と参加者からの質問、意見、要望を聞き、改善に向けた取り組みを話し合っている。しかし、議題がなかなか決まらず、報告のみで終わる事もある。	○	会議には、いろんな職種の方が参加出来るように地域に声かけしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、常に連絡をとり、困った事や質問事項があれば、聞いている。	○	地域密着型サービスでは、考え方や実態を市担当者によく知ってもらい、課題解決にむけた協働を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議で、専門職の方を講師で呼び出し、勉強会を開いた。だが、現在は成年後見が必要と思える方がいないため、実際は職員が理解できているかはわからない。その為必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。	○	研修会や勉強会を開いて、実際に活用できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で、高齢者虐待防止法に関する勉強会を開き職員全員に周知している。	○	現在ホーム内では虐待はないと思えるが、発見した場合の対応の仕方等も含めて定期的に勉強会を開き、職員全員に周知徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所が決まった時点や入所時に家族、本人を交えて説明している。事業所のケアや取り組みや医療体制について説明している。契約以後でも、疑問点などあればその都度時間を作り説明している。</p>	<p>○</p> <p>入居者の立場に立ち、将来のことを含めて、十分に説明と話し合いをし、納得を得た上での契約・解除等になるように努めていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。また苦情箱の設置をしている。運営推進会議の際に意見等が出た場合は日々のケアに生かせるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>介護相談員等の受け入れを検討していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月利用料の領収書や請求書と一緒に担当者からの最近の様子を書いた手紙を同封している。健康状態に変化があった場合は、その都度電話連絡したり、面会時に報告している。金銭管理も出納帳をみせて確認してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>手紙の中に、最近の様子がわかる写真も同封している。金銭出納帳には、確認していただいた時には、サインを書いている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には手紙や面会時、運営推進会議等で常に問いかけし何でも言ってもらえるような雰囲気作りには心がけている。出された意見は、ミーティングで話し合い、運営やケアに反映させている。</p>	<p>○</p> <p>家族が何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしているつもりだが、なかなか忙しく動き回っている職員を呼び止めてまで苦情等は言われないので、こちらから声かけをして意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに心がけたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングは毎日、勉強会は随時行い、意見を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の要望や意見を聞くように心がけているが、不満や苦情は、言いたい部分も多いので、把握できない可能性もある。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や就寝時、入浴などは、その都度必要に応じて、職員の配置を考えている。</p>	<p>○</p> <p>余裕を持った人員を確保できていないので、職員の急な休みの時には、対応が困難な時がある。余裕が持てるような勤務体制を取れるようにしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者とご家族への信頼関係を築くために、受け持ち制をしている。離職がやむえない場合は、引継ぎをして最善の努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>受け持ち制にしているが、一人で問題を抱えこまないために、毎日ミーティングを行い、ケアプランの共有を図るようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会は定期的に行っているが、事業所外の研修はなかなか参加できていない。研修に参加された職員の報告は全体ミーティングで報告している。	○ 出来るだけ研修に参加できるような勤務体制が取れるようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会が発足されたので、その中での研修に参加し、意見交換等の交流を持てるようにしていきたい。現在はまだ地域の同業者との交流はもてていない。	○ 他のグループホームの見学や研修に積極的に参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや悩みを把握するように努めている。定期的に職員間の交流や親睦をはかるために食事会等を開いている。	○ 職員によっては何をストレスと感じているかは違いがある。個々に話を聞いたりしていきたい。また地域に同業者などと交流する機会を作り、ストレスを少しでも緩和できるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせる環境作りに努めている。	○ 職員の努力や成果について把握できるようにしていきたい。またやりがいや向上心がもてる職場環境にしたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前や事前に生活状態を把握するように努め、入居者によっては、通所で利用してもらい、ご本人が求めていることや不安を理解しようと工夫している。	○ 必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、受けられるような環境作りに努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。	○ 家族の状況を把握することによって、信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認している。	○	本人や家族の要望をもとに、何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が施設を見学してもらうことから始めて、入所してもよいかどうかを決めていただき、申し込みをされている。また入所してから自室は本人が今まで使っていた馴染みの物を用意してもらい安心感がもてるような生活環境にしている。	○	今までの生活の雰囲気を大きく変えることなく、馴染み物を使えるように、本人、家族と相談しながら工夫していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知る事に努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあう関係作りに留意している。	○	支援する側、される側にならないように、日々の生活の中で一方的な関わりになってないか、確認をしながら支援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、家族との情報交換を密に行い、本人を支えていくための協力関係が築けるよう努力している。	○	一方的な関係にならないように喜怒哀楽を共にしながら本人の生活を共に支援していく対等な関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見ながら、面会や外出で家族と一緒に過ごす時間を作ったりしている。	○	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けていきたい。また行事に家族を誘ったりして、一緒に参加出来るようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行ったり、近所のお友達が面会に来たり、キリスト教の礼拝を毎日お部屋でされたりして、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	○	地域に暮らす馴染みの知人・友人が面会に来られるように、継続的な交流が出来るように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に話をしたり、入居者に役割をもってもらい、その活動を通して利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。	○	入居者の同士の関係性について、職員が情報を共有・連携できるようにミーティングしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られてからも、家族からの相談を受けたりしている。	○	契約が終了しても、相談や支援に応じていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。本人にとってどのように暮らすことがいいのか、常に家族と一緒に検討している。	○	意思の疎通が困難な方でも、日々の行動や表情から汲み取ったり本人の視点に立って話し合いをしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人からまた家族からどんな生活をしてきたかを聞き把握している。	○	職員がプライバシーに配慮し、本人や家族等と馴染みの関係を築きながら、日々の生活を支援していくようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握するように努めている。	○	出来ないことより、できること・わかる力を暮らしの中で発見していけるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの思いや意見を本人や家族から聞いて計画を立てている。モニタリングやミーティングを随時おこなっている。	○	入居者がより良く暮らしていけるように、また本人本位の計画になるように、職員全員で意見を出し合い検討していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族や本人の要望を取り入れながら計画し、3ヵ月ごとにモニタリングし、見直しをしている。	○	本人の状態が変化した場合は、随時検討し介護計画の見直しをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子や言葉、状態変化を記録している。職員には、勤務前に確認して勤務するようになっている。	○	個別に記録をし、職員間で、情報の共有を徹底し介護計画を計画し、見直し、評価していくようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、往診など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。	○	本人、家族の状況に応じて、通院、往診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながら生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避など必要な支援は柔軟に対応していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して地域で暮らしを続けられるよう、警察や地域の方と意見交換する機会を設けている。またボランティアへの協力を呼びかけている。	○	入居者の方が安心して地域で暮らしていけるようにするには、どのような地域資源があるのか、その資源を活用するためには、どのように連携を取ればよいのか検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族に希望に応じて、馴染みの美容院へ行ったり、訪問理美容サービスを利用している。	○	本人の生活をより総合的に支援する為に地域のいろんなサービスと連携をとれるようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、勉強会も開催している。また情報交換、協力関係を築けるように努力している。	○	本人本位の支援が出来るように、地域包括支援センター等と協働していくように努力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関に受診している。受診や通院は、基本的には家族同行になっているが、出来ない時には職員が代行している。契約時に説明し同意を得ている。	○	定期的な受診のほか、入居者の変化や健康面で不安がある場合その都度相談できるように複数の医療機関と連携をとっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に相談できる医療機関と連携をとっている。	○	医療機関と信頼関係を築きながら相談に応じてもらいながら、個別支援をおこなっていききたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師の資格を有しているため、常に入居者の健康管理や医療面での相談、助言、対応している。	○	往診をしてもらっている医療機関の看護師とも相談しながら健康管理の支援をしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐ為に、家族とも情報交換しながら、職員とも対応可能かどうか相談しながら早期退院できるように支援している。	○	医療機関に対しても、なるべく混乱が少なくスムーズな退院につながるよう話し合いを持ち、支援していききたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態変化に伴い随時家族、職員と話し合いを持ち、家族の思いや本人の思いを尊重し支援している。	○	入居前に十分説明し、状態変化があればその都度家族に思いなどを確認していけるように支援していききたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の意思を大切に家族と話し合い安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいる。急変した場合は、すぐ対応して頂ける医療機関とも連携を図っている。	○	重度や終末期の入居者を支える為、できること、出来ないことを明確にして全職員で話し合いながら、家族や医療関係者と連携をもちながら支援していききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい施設でも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容などの情報提供し、連携を図っている。	○	新しい施設の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、暮らし方などをプライバシーに配慮しながら情報提供していききたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方で、入居者のプライバシーを損なわないように、勉強会やミーティングで話し合い、対応を心かけている。	○ 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるようなことがないように全職員徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声かけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、職員の意見を押し付けることなく、一人ひとりが自分で決めれる場面を作れるようにしている。	○ 日々の生活の中で一人ひとりの力に合わせて、自身が決定する場面を作ったり出来るように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、一人ひとりの生活パターンがあるため、それを尊重しながら支援している。	○ 一人ひとりが、「その日」にしたいことを把握し、入居者本位のケアに努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服などの着替えは、基本的に本人が決めているが、おかしい服装になったり、判断できない入居者には、一緒に考えて決めている。理美容についても本人の意向を聞いていて、馴染みの美容院に出かけられるように支援している。	○ 職員側の価値観や一方的な支援ではなく、本人の好みや意向、持っている力に応じた支援をするように心かけたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑でとってきた野菜を使い調理をしている。入居者と職員が同じテーブルで楽しく食事が出来るように雰囲気づくりをしている。	○ その日のメニューを入居者と一緒に決めたり、買い物に出かけたり出来るように計画していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコについては、本人の希望にそって決まった場所で喫煙し、タバコは職員が管理している。	○ 入居者の嗜好を把握し、楽しめるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をしている。出来るだけ昼間は普通の下着を着用し、夜間のみ紙パンツを使用するように支援している。	○	本人の生活リズムにそった排泄援助をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、入浴したい時間になっている。言葉かけや対応の工夫をし、一人ひとりに合わせた声かけをしている。	○	入浴でのプライバシー、羞恥心などに注意しながら支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。その日の体調に合わせてゆっくり休息が取れるように支援している。	○	昼夜逆転しているような入居者は、原因を見極めその人のリズムを取り戻せるように支援していきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみ、潜在している記憶や出来る力を最大限生かせるように支援している。食事作り、野菜の収穫、食器拭き、洗濯物たたみ、掃除などその人にあわせて支援している。	○	職員側の思い込みでの支援にならないように、その人に合った楽しみになるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるが、入居者によっては自分で管理して、買い物時には、自分で支払いをしている。支払いはしないが、自分で持っている入居者もいる。	○	家族と相談しながら、一人ひとりの力や希望に合わせて金銭管理の支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の体調や希望に応じて季節ごとにドライブ、散歩、食事等にでかけている。	○	短時間でも戸外に出る機会を作り、職員や入居者の両方にとっての気分転換やストレス発散できるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の外出計画は、事前に計画し、職員の勤務を調整しながら実施している。	○	入居者と職員の外出はしているので、家族も含めた計画を立て実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙を出せるように支援している。	○	単なる電話の取次ぎでなく、プライバシーに配慮しながら手紙を書いたり、電話を使用することを個別に支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会の方がいつでも来やすい雰囲気作りをしている。面会時間も定めてはいないので、家族の都合のいい時間にいつでも来ていただけるようにしている。	○	本人の馴染みの人達が気軽に訪ねやすく、居心地よく過ごせるよう配慮や工夫をしていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会は行なっている。またミーティングでは、職員の行動が身体拘束になってないか点検している。	○	身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について全職員は理解し、拘束のないケアにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりのその日の気分や状態を観察し、見守り方法を検討することで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。	○	出て行く気配を職員が見落とさない見守りや連携ができるように、また近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡してもらえるような関係を築いていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で仕事を行いながら、さりげなく入居者の状況を把握するように努めている。夜間は、時間ごとに様子を確認している。	○	昼夜共に入居者を見守りしやすい位置にいて、入居者の様子を察知できるようにしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の認知症の症状によって、嚴重に保管すべきもの、使う時に注意が必要なものなど分けて管理している。	○	入居者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、その都度話し合いをして、管理方法を決めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットに関する報告書は保存し、必ずミーティングを開き、それをもとに事故防止対策を検討している。	○	誤嚥のリスクの高い入居者の食事介助や服薬の方法、喫煙方法など個別に事故防止を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が、応急手当や緊急時対応などの勉強会を実施している。マニュアルを整備し、周知徹底している。	○	随時勉強会を開き、その都度対応方法の検討や実施訓練等を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。	○	避難訓練等は定期的に行うようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクについて把握し、状態が変化した場合など特に、家族に話し対応を検討している。	○	状態の変化がなくても、一人ひとりに起こりうるリスクの検討を定期的に行うようにしていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲の低下や顔色、様子等の変化が見られた場合には、速やかに看護師(管理者)に報告し、指示を仰ぎ、変化の記録をしている。必要があれば受診している。	○	一人ひとりの状態について日々職員間で、情報を共有し、変化が見られた場合に速やかに報告、対応が出来るようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容、薬効などのファイルを作成し、職員がいつでも把握できるようにしている。服薬は、自分で出来る方は手渡し、出来ない方は、介助し服薬確認している。	○	薬の内容が変更になった場合や本人の状態変化が見られた場合は、詳細な記録をとり、医療機関と連携が取れるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握し、出来るだけ自然排便が促せるように、食事や活動等身体を動かす機会を適度に設けるようにしている。	○	便秘予防に向けて、食事内容等見直ししながら工夫していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをしている。見守り、介助したりしている。就寝前は義歯の洗浄を介助している。	○	その人の生活習慣や意向を踏まえながら個別に支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量のチェックを毎日して、記録している。水分を時間ごとに声をかけ、摂取できるようにしている。また自分で水分摂取が出来る方は、自室にお茶やポットを用意している。</p>	○	脱水に注意しながら、水分の摂取量に注意していきたい。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症のマニュアルを作成し、全職員で勉強会をして、予防や対策に努めている。感染症が流行している時には、随時ミーティングを行い、当事業所での予防・流行の対応を検討している。</p>	○	感染症に関して、事業所としての具体策や早期発見・早期対策が取れるように職員に周知していきたい。
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具、台所水まわりの清潔、衛生を保つように定期的に漂白、消毒をしている。新鮮で安全な食材を使用するため、冷蔵庫や冷凍庫の点検は随時行っている。</p>	○	清潔、衛生を保つため定期的に漂白・整理している。また新鮮な食材を使用するように心掛けていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>明るい雰囲気になるように玄関に花を生けたり、ベンチを設けたりしている。案内板は作っていない。</p>	○	近所の人気が気軽に立ち寄って頂けるように、また入りやすいような配慮をしていきたい。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の方が過ごす共同空間が、入居者の心地のよい場所、安心感のある場所になるようにしている。馴染みのある物を使用したり、季節感が出せるように工夫している。</p>	○	居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしを整えていきたい。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになれる居心地のよい空間はないかもしれませんが、いつでもホールへ出てきて一人になったり、2~3人で話したり出来るように開放している。</p>	○	ホール以外に椅子やソファ、小さなテーブル等が置かれる空間を確保できるように工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今まで使い慣れた馴染みのある箆笥やテーブルを持参してもらっている。	○	馴染みのある物を活かしてその人らしく過ごして頂けるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や湿度の調節は、職員の感覚だけでなく入居者の一人ひとりに合わせた状態に配慮している。	○	気になるにおいや空気のおよみなどがないように定期的に換気したり、温度計を見ながら調整していきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に考慮し、入居者の状態に応じて生活環境の改善が必要かどうか検討している。	○	入居者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下など安全かどうか検討しながらケアするようしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、新たな混乱や失敗がないかどうか、その都度職員でミーティングを開き検討している。	○	一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチを置き涼んだり日向ぼっこができるようにしている。敷地内には、畑もあり、収穫時には一緒に収穫している。	○	入居者がその人らしく過ごせる場として外回りの空間を活かせるようしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム暖談は、「笑」をモットーに毎日支援している。毎日笑って楽しく暮らせれば良いという考えである。心のこもった笑顔で入居者の自立を支援します。